

神戸市会 会議録

2008.03.03 : 平成 20 年予算特別委員会第 1 分科会〔20 年度予算〕(企画調整局) 本文
(一部抜粋)

64 : ○分科員 (北山順一)

○分科員 (北山順一) それでは質問をさせていただきます。

まず、この件は先日の本会議でもお伺いをいたしました。石井副市長からも一定の答弁をいただきました。けれども、さらに 1 歩そこを進めてご答弁いただけたらありがたいと、こう思っています。

まず、ハーバーランドから H A T 神戸、あるいはポートアイランド西側地区のウオーターフロントについては、既にもう再開発が十分できております。さらに今度はランドデザインを策定するということがあって、この地域より西側の地域には、要は西側のウオーターフロントについても目を向けていただきたいと、これを忘れてもらったら困ると、こういうふうに思っております。例えば、西側には中央卸売市場がありますし、苅藻がありますし、長田港がありますし、須磨ヨットハーバーがありますし、須磨の海岸、あるいは垂水というところに、いろんな神戸のすばらしいウオーターフロントがあるわけがございますから、ここのところをいかにすばらしいデザインに配慮したまちづくりに取り組んでいただけるかということとは大事なことでありますから、そのところについてのご見解をお伺いしたいと思っております。

また、次に、このランドデザインの中に、神戸港が瀬戸内海クルーズのマザーポートとなるような計画を折り込んでいただきたいと、こういうふうに思っております。神戸港から出る船、別府やとか九州、日向とか、ああいうところに行くんですけども、夜出て夜中のうちに瀬戸内海を通過して向こうに着いていく。向こうからこちらへ来るときも、夜乗って船の中で 1 泊して神戸へ帰ってくると。この瀬戸内海のすばらしい風景ということが、全く無視されておるわけなんです。昔からご存じのとおり、外国の人たちから見れば日本には川がない。だからリバークルーズというのができないんだと、こういうふうに言われてきておるんですけども、実際は外国から日本に来て瀬戸内海をクルーズした人は、日本には川がないと言うけど、立派な川があるやないかと。何でこの川をと、こういうことになっておるようであります。あの瀬戸内海のクルーズを 2 泊なり 3 泊なりしながらクルーズをしていただきたい、そのマザーポートになってほしい。どこかから来た船が行くのではなくて、神戸発の神戸着と。神戸を朝出て神戸に夜着く。こういうクルージングをやっていただきたいと思っております。

3 番目には、昨年、神戸市は E S T の実験として、ちょい乗りバスというものに取り組んでまいりました。このちょい乗りバスの成果を見て L R T の導入を考えていこうと、こういうことでございましたが、この L R T の導入を、あの実験結果でどのように考えていらっしゃるのかなということをお伺いしたいと思います。

さらに、昔は大丸の前がホコ天とか言って、歩行者天国と、こう言っておりました。もうあれがなくなって随分になりますけれども、あの実験は私非常にいいことだったと、こう思っております。今、ヨーロッパを中心に、カーフリーデーという言葉で車のない通りをつくりつつあります。日本でも名古屋でそれをやろうとしております。そういうカーフリーデーでもホコ天でもいいんですが、そういうまちづくりを

考えていただきたい。旧居留地の歩道を広げてやるということでもいいんですけども、いわゆる車出て
いっていただいて、そこを一回フリーに使っていただける、こういう考え方もしていただいたらどうだろ
うかなと、こう思っております。

4 点目、旧二葉小学校の活用計画について、企画調整局では 20 年度予算として 500 万円の予算をつけて
取り組もうとしていらっしゃいます。500 万円も予算をつけたということは、相当考えてつけたんだらう
と、こう思っておりますが、しかし、その予算をつけてどういうことをしようとしているということにつ
いても大事ですけども、予算をつけて何をやるにしても、本当に地域の人たちが、地域の人々が本当に
みんながその道を望んでおのかどうかということについて、十分認識の上で考えて行動してほしいとい
うことを申し上げて、そのあたりは大丈夫でしょうかということをお伺いして、私の質問でございます。

65：○中村企画調整局長

○中村企画調整局長 北山委員のご質疑に対しまして、数点ご答弁申し上げたいと思います。

まず、西部地域のウォーターフロントのお話でございます。過日の本会議でも質疑があったところでご
ざいますけれども、私どもとしては、まずはデザイン都市・神戸を象徴するエリアでございますところの
都心ウォーターフロント、これのグランドデザインをまずは考えようということでございます。H A T から
ハーバーランドに至るエリアでございますけれども、ということで、決して西側を忘れてるわけでも何で
もございません。ご存じのように西側のインナー対策とか、そういうことで一生懸命これからも、これま
でもずっと取り組んできているわけでございます。その検討の中にはウォーターフロントの話も当然あ
るわけございまして、決して忘れてるわけではございません。ご指摘ありましたように、兵庫運河、長
田港、須磨海岸、あるわけでございます、貴重な資源が。それらを活用していくことは本当に重要
だと思っております。

兵庫運河につきまして、実は国土交通省の方の運河の魅力再発見プロジェクト、これに認定をされまし
て、将来像を検討することにいたしてございます。その中でまずは兵庫運河と、例えば長田港、あるいは
須磨海岸との水面を利用した回遊性等、こういうような視点も必要ではないかと、このように考えてまし
て、その長田港——失礼しました、兵庫運河、これの将来像を検討する中で、今、申し上げましたような
視点を踏まえて、関係局とも議論をしていきたいなと、このように考えておりますけれども、選択と集中
という観点から、まずはH A T からハーバーランドの部分につきましてのグランドデザインをまとめさせ
ていただきたいということでございますので、その点ご理解を賜りたいと、このように考えております。

それと、旧二葉小学校の活用の問題でございます。ご案内のように、旧二葉小学校、特に東側の校舎で
ございますけれども、昭和4年ということでございます、建設されましたのが。約80年ということで、戦
災は乗り越えましたし、あの震災にも耐えた建物であるということでございまして、あれを残して、やっ
ぱり新長田周辺の地域活性化、これに寄与するように検討していこうではないかということで、調査費、
計画策定費を予算に上げさせていただいてるということでございます。

地域住民の声という部分では、昨年6月に地域の皆さんが旧二葉小学校の活用検討委員会、これを発足
をされてございまして、建物の利用内容につきまして検討を今進められておられます。ワークショップなん
かも開かれておられます。とりあえずいろいろなアイデアがあると思うんですけども、1つ例えば震災

学習ですとか、あるいは生涯学習、こういうものに活用できないかというような意見も出されているやに聞いてございますけれども、いずれにしても、スケジュール的には一応3月末をめどに、検討委員会としての内容をまとめようということで進められているようにお聞きをいたしております。

今後、私どもとしても、庁内の関係部局と連携をいたしまして、どんな形で旧の小学校を使っていくかということにつきましては十分検討をして、活用計画としてまとめさせていただきたいと、このように考えてるわけでございますけれども、その地域の皆さんの意見という点で申し上げましたなら、検討委員会の意見のみならず、それを含めて地域の声を聞きながら進めていくということで、区役所ともそのやり方なんかには相談をしながら工夫をしてやっていきたいと、このように考えておるところでございます。

以上、私の方からご答弁申し上げます。

66：○足立企画調整局参与

○足立企画調整局参与 瀬戸内海クルーズの件でございますけれども、この誘致はみなと総局が担当ということになると思いますが、みなと総局の方では、客船はもう停泊するだけで港のにぎわいを演出する観光資源でもありと。また乗客の消費、宿泊等、経済的な波及効果も期待できるということで、積極的に誘致に取り組んできたところでもある。神戸港は地理的にも瀬戸内海クルーズの拠点として優位性があるというふうに考えておって、瀬戸内海クルーズのハブ港となるように、内外の客船会社に誘致活動を積極的に行っていくというふうに申しております。

私どもの方、都心ウォーターフロントのグランドデザインを検討する立場からしましても、クルーズ船が出入りをする景色、あるいは停泊している景色というのは、神戸らしいウォーターフロントの魅力を高める貴重な資源であるというふうに評価をしております。

67：○樋口企画調整局調査室長

○樋口企画調整局調査室長 私から、カーフリーデーにつきまして回答申し上げます。

カーフリーデーというのは、1日、自動車を使わない地区をつくり出して、交通・環境の問題を考えようと、こういう意味でございますね。9月22日ということで、欧州の方で盛んに行われているということでございますが、神戸市ではこのカーフリーデーと同様の取り組みとして、ノーマイカーデー、毎月20日でございます。平成5年からやってございますし、また最近では、これ神戸市と阪神都市なんですけど、各都市を巻き込んで公共交通を利用する日もやろうと、こういうことで動きしてございます。

また一方で、平成15年度から17年にかけて、明石町筋の歩行者天国、復活をいたしました。取り組みといたしまして、神戸旧居留地フリーウォークということで実施をしたわけですが、やはり若干交通渋滞が周辺で生じたということとか、それから警備等で多額の経費がかかると、こういうことが結果として課題で明らかになりました。この実験結果等を踏まえまして、地元の意見も踏まえて、委員もご指摘のように、明石町筋につきまして歩道を拡幅しようと、2車線を1車線にして拡幅しようというふうに予定と聞いてございます。

このように、このカーフリーデーというのがノーマイカーデーとフリーウォークとを合体させたものというふうに考えられますので、これらの経験踏まえながら、歩いて楽しい魅力的な都心づくり、これが神

戸ESTの目標でございます。その位置づけの一環として、この効果や可能性につきまして研究・検討してまいりたいと、かように考えてございます。

以上でございます。

68：○長田企画調整局デザイン都市推進室長

○長田企画調整局デザイン都市推進室長 私の方から、交通社会実験の関係についてお答えを申し上げます。

今回の交通社会実験でございますが、ちよい乗りバスの乗客数は18日間で総乗客数5,083人、1日当たり平均で282人ということでございます。また、利用者からは南北方向の移動に便利であるというような好評をいただいた一方で、北野や三宮へも経由してほしいと。あるいはバスをもっと小型化してほしいと、こういったような改善要望も多く寄せられております。

こういったことを受けまして、我々としましては南北方向の一定の需要は確認できたというふうには思っておりますが、ちよい乗りバスの本格導入に当たりましては、ルートや事業採算性の観点から、さらに十分な検討が必要であるというふうに考えてございます。

ただ一方で、当面は歩いても楽しい魅力的な都心づくりに取り組んでいくべきであるということが再確認できたというふうにも思っております。この3年間の取り組みの成果を生かして、1つは気軽に歩きたくなる回遊空間づくり、2つ目に、歩行者支援の交通システムづくり、それから3つ目に、歩きたくなる仕掛けづくり、4つ目に、ESTの普及・啓発、こういった4つの課題に沿いまして、今後、関係局と連携を図りながら、EST実現に向けて総合的に取り組んでまいりたいと思っております。

LRTの導入をどのように今後考えるかということでございますが、LRTは人と環境に優しい公共交通ということで、現在再評価をされておりますが、導入に当たりましては、そのスペースを現在の道路内に確保する必要があるということで、一般的には周辺道路の渋滞の問題でありますとか、荷さばきの制約などの課題があるということで、そして何よりも事業採算性の問題もございます。いずれにいたしましても、今後は引き続きLRTをはじめといたします、人と環境に優しい公共交通について研究を進めるとともに、今回の社会実験の成果や経験を生かして、環境に優しく、歩いても楽しい魅力的な都心の実現に向けまして、回遊性向上のための具体策を検討してまいりたいと、このように考えてございます。

以上でございます。

69：○分科員（北山順一）

○分科員（北山順一） 局長も明確にご答弁をいただきましたから、本当にいいなとは思って聞いておるんですけども、HAT神戸からハーバーランドまでのグランドデザイン、まずはそれに取っかかりと、こういうことでございますけれども、まずはそれに取っかかりながらも、西だって一緒にできるんでね。それに手がとられるから西がさわれないということではないと私は思っておりますから、まずはそれに取っかかりからしてくださいではなくて、西もやりましょうということに、そういうご回答を期待しておりますので、改めてもう1回お答えをいただきたいと、こう思っております。

それから、クルーズ船につきましても、今、非常に前向きなお話でございました。震災直後は、神戸に

入ってきたそういう客船は14隻だったそうでございまして、昨年は100隻ちょうど入った、こういうこと
でございすけれども、神戸から出て神戸へ帰ってくる船が、それだけでも100隻来るぐらい、神戸港は
それだけのキャパシティーがありますし、神戸というまちのキャパシティーもそれは十分あると、こうい
うふうに考えておりますので、クルーズ船については、これいろんな産業振興局あたりが企業誘致いうて
走り回ってますね。このクルーズ船を神戸に——神戸船籍の船という意味ですよ、私言ってるのは。神戸
船籍の船を誘致するというのも大事な大事な私は企業誘致だと、こういうふうに思いますので、これは
あなたの局だけではなくて、みなと総局だけでなく、産振局も一緒になって、クルーズ、いわゆる企業
誘致をしていただくと、そういう決意でお答えをいただきたいなと、こう思っております。

それから、LRTの導入について、いろいろ今楽しい話を聞かせていただきました。これは最終的には
LRTは入れてほしいと思っておりますので、LRTがなかったとしても楽しいまち、歩いて本当に楽しめるまちと
いうのも本当にいいんですよ。だけど、LRTがあつたらもっといいのにと、こういうふうに私は考えて
おりますので、そこらあたりについても、もうちょっとだけ考えたいいい答えをいただけたらええなと、あ
と3分ほどありますので。

それから、二葉小学校の問題につきましても、地域の皆さんが何回にもわたって勉強しながら、会議を
しながら、あれもいい、これもいいと言うて考えていらっしゃるのも事実であります。何回にもわたって、
17~18回やってるんじゃないですかね、それぐらいやっております。そして地域の人にもそういうことを
やりますよという通知もしておるようであります。しかし、地域の方は余り知らないという人が結構たく
さんおる。だからそこらのところを地域の人にも十分理解した上で、あの二葉小学校が地域活性化の核にな
るんならば、私たちも一生懸命応援しなきゃならんと、こう思っております。そのあたりについて、その
微妙なところを、地域の人たちの心を一緒に1つにさせていただける、そういう努力をしていただきたいと
いうことを言っておるんですが、そこは大丈夫でしょうか。

70：○中村企画調整局長

○中村企画調整局長 まず、ウォーターフロントの問題で、西側もやるべきだということでございます。
繰り返しになりますけれども、ランドデザインとしては、まずはHATからハーバーランドのところを
やらせていただきたいと。ただ、西もほうっておくというわけじゃないということでございまして、申し
上げましたように、運河の将来像を考える中で、水面の連携みたいなことを、長田港、須磨海岸等を含め
ての連携のようなことも頭に置きながら、庁内でまずは議論をしていきたいと、こういうことございま
す。ご理解をいただきたいと思います。

それと、二葉小学校の問題につきましても、やっぱり検討委員会ということじゃなくて、それに参画を
されてない方のご意見もいろいろあろうかと思えます、実際問題として。ですから、その辺につきまして
は、区役所の方とよく相談をさせていただきまして、やっぱり地元の皆さんに、みんなに喜んでいただ
ける、そして地域の活性化になるようにしないといけないと思っております。その辺はよく区の方と相談
しながら進めさせていただきたいと、このように考えております。

以上、私の方からご答弁申し上げます。

71：○足立企画調整局参与

○足立企画調整局参与 クルーズ船でございますけども、マザーポートという言葉を使うと、どうもやっぱり先生おっしゃるように、船籍が神戸にあるという形のようにございます。ただ、クルーズの場合は外国客船もたくさんございますので、みなと総局の方としてはそこまでじゃなくて、神戸港を起点にして近海をぐるぐる回れるというような形で、ハブ港という言い方をとりあえずしておりますけども、当面はハブ港にしてくれるような瀬戸内海クルーズを積極的に誘致したいということで、関係部局とも連携をしながら頑張っていきたいと思っております。

72：○分科員（北山順一）

○分科員（北山順一） 今、ご答弁をいただきました1つ1つの言葉をよくかみしめて、私は今後頑張りますので、どうぞ皆さんもその答えをかみしめながら行動していただきますことをお願い申し上げます。
終わります。